

## 『『新京都府人権教育・啓発推進計画』に関する府民調査』の結果について

京都府人権啓発推進室

## 第1章 人権に関する一般的な考え方や認識について

## 1 人権尊重の感じ方

問2-1 人権を取り巻く社会の状況について、あなたはどのように思いますか。

## 【調査結果】

ア 府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている。(※5年度と13年度の調査では「府民」が「国民」)。

(%)

区 分	そう思う	どちらかといえば そう思う	いちがいに 言えない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
<b>23年度調査（今回）</b>	<b>11.5</b>	<b>27.3</b>	<b>30.8↑</b>	<b>6.2</b>	<b>6.0</b>	<b>16.5↑</b>	<b>1.6↓</b>
	<b>38.8↓</b>			<b>12.2↓</b>			
13年度調査	40.6↓		22.9↓	19.6↑		11.9	4.9
5年度調査	52.4		30.0	13.4		(設定なし)	4.2

特 徴	京都府では、「人権教育のための国連10年京都府行動計画」や「新京都府人権教育・啓発推進計画」に基づき、あらゆる場・あらゆる機会を通じて人権教育・啓発の取組を進めてきたが、13年度調査との比較でみると、“そう思う”（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計）とする割合が減少し、「いちがいに言えない」「わからない」とする割合が増加しており、取組の成果が府民が実感されるまでに至っていない。
課 題 等	人権教育・啓発の成果が、府民の実際の生活において具体的に活かされることにつながる取組が必要。
取組の方向	「人権とは何か」ということや様々な人権問題の現状・課題等について知識を得るとともに、基本的人権尊重の理念が日常生活の中でどのように活かされているか、人権問題を解決するために何が必要かということを実感できるよう、講義型の研修だけでなく、人権問題の解決に取り組む人々との交流等を促進する。

イ 京都府は、人権が尊重された豊かな社会になっている、(※5年度と13年度の調査では「京都府」が「日本」)

(%)

区 分	そう思う	どちらかといえば そう思う	いちがいに 言えない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
<b>23年度調査（今回）</b>	<b>4. 9</b>	<b>22. 6</b>	<b>36. 1↓</b>	<b>8. 0</b>	<b>9. 0</b>	<b>17. 2↑</b>	<b>2. 1↓</b>
	<b>27. 5↑</b>			<b>17. 0↓</b>			
13年度調査	16. 6↓		49. 6↓	19. 5↑		7. 1	7. 2↑
5年度調査	22. 8		59. 2	13. 9		(設定なし)	4. 1

特 徴	13年度調査との比較でみると、“そう思う”（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の計）とする割合が増加し、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の計）とする割合が減少しているが、13年度調査と5年度調査の比較で見ると、“そう思う”とする割合が減少し、“そう思わない”とする割合が増加しており、直近2回の調査で正反対の評価が表れている。また、「わからない」とする割合は13年度から大幅に増加していることから、人権尊重に対する意識が多様化していることや、求める水準が高くなっていることがうかがえる。
課 題 等	人権教育・啓発の成果が、府民の実際の生活において具体的に活かされることにつながる取組が必要。
取組の方向	「人権とは何か」ということや様々な人権問題の現状・課題等について知識を得るとともに、基本的人権尊重の理念が日常生活の中でどのように活かされているか、人権問題を解決するために何が必要かということを実感できるよう、講義型の研修だけでなく、人権問題の解決に取り組む人々との交流等を促進する。

## 2 人権課題に関する尊重度

問2-2 あなたは、次にあげた人権が尊重されていると思いますか。

【調査結果】

		(%)					
区	分	尊重されている	ある程度尊重されている	あまり尊重されていない	尊重されていない	わからない	無回答
同和地区出身者の人権	23年度調査(今回)	16.8	34.6	11.6	4.9	28.3↑	3.9↓
		51.4↓		16.5↑			
	13年度調査	21.01	31.52	10.89	3.42	27.22	5.95
女性の人権	23年度調査(今回)	19.0	58.2	11.0	1.8	6.0↓	3.9↓
		77.2↑		12.8↓			
	13年度調査	12.03	46.71	22.53	3.16	10.25	5.32
子どもの人権	23年度調査(今回)	20.9	50.1	12.7	3.5	8.7↓	4.1↓
		71.0↑		16.2↓			
	13年度調査	10.25	45.19	21.39	6.08	11.14	5.95
高齢者の人権	23年度調査(今回)	16.8	48.8	19.3	5.7	6.2↓	3.1↓
		65.6↑		25.0↓			
	13年度調査	11.14	43.67	23.54	5.06	11.14	5.44
障害のある人の人権	23年度調査(今回)	13.8	43.6	21.5	7.7	9.5↓	3.9↓
		57.4↑		29.2↓			
	13年度調査	12.66	40.76	25.19	5.95	9.62	5.82
外国人の人権	23年度調査(今回)	6.4	33.2	22.4	4.2	29.0↑	4.8↓
		39.6↑		26.6↓			
	13年度調査	2.91	22.66	28.35	10.89	28.23	6.96
エイズ、ハンセン病患者等の人権	23年度調査(今回)	2.8	14.6	23.3	12.9	42.4↑	4.1↓
		17.4↓		36.2↓			
	13年度調査	3.42	16.33	26.33	15.57	30.76	7.59
犯罪被害者とその家族の人権	23年度調査(今回)	1.5	10.1	25.0	18.6	40.6↑	4.2↓
		11.6↑		43.6↓			
	13年度調査	2.03	8.61	26.71	28.48	27.72	6.46
		10.64		55.19			

(%)

区	分	尊重されている	ある程度尊重されている	あまり尊重されていない	尊重されていない	わからない	無回答
ホームレスの人権	23年度調査(今回)	1.0	8.1	24.2	25.2	37.4↑	4.1↓
		9.1↓		49.4↓			
	13年度調査	1.77	8.48	24.18	25.70	32.78	7.09
		10.25		49.88			
性同一性障害者	23年度調査(今回)	1.7	14.0	19.3	13.0	47.9	4.0
	13年度調査	(設定なし)	(設定なし)	(設定なし)	(設定なし)	(設定なし)	(設定なし)

“人権尊重度”という表現は、一般的なものなのでしょうか。

↓ 「人権尊重の度合が高まっている」といったようなわかりやすい表現の方が良いのでは。

特徴	<p>13年度調査との比較でみると、『女性の人権』『子どもの人権』『高齢者の人権』『障害のある人の人権』については、“尊重されている”（「尊重されている」「ある程度尊重されている」の計）とする割合が増加し、“尊重されていない”（「あまり尊重されていない」「尊重されていない」の計）とする割合が減少している。また、“尊重されている”とする割合は概ね6割を超えていることから、府民の身近にある問題として、人権尊重の度合が高まっていることがうかがえる。</p> <p>一方、『同和地区出身者の人権』『外国人の人権』『エイズ・ハンセン病患者の人権』『犯罪被害者とその家族の人権』『ホームレスの人権』『性同一性障害者の人権』については、「わからない」とする割合が概ね3～5割前後と、他の人権課題に比べて大幅に高く、かつ13年度調査より増加しており（『性同一性障害者の人権』以外）、府民にとって身近な問題とは認識されていないことがうかがえる。さらに『同和地区出身者の人権』については、“尊重されている”とする割合が減少し、“尊重されていない”とする割合が増加しており、人権尊重の度合いが低下していることがうかがえる。</p>
課題等	<p>① 府民にとって身近に感じにくい人権問題についての理解や認識の促進。</p> <p>② 同和地区出身者の人権の尊重。</p>
取組の方向	<p>① 府民にとって身近に感じにくい人権問題についての理解や認識を深めるため、人権問題の解決に取り組んでいる人々との交流等を促進する取組を進める。</p> <p>② 同和地区出身者が置かれている現状や課題に対応した施策を推進する。</p>

## 第2章 人権侵害に関する実態や相談状況について

### 1 人権相談窓口の認知度

問3

あなたは、人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国（法務局や人権擁護委員）をはじめ地方自治体（京都府や市町村）やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれているのはご存じですか。

【調査結果】

(%)

区分		知っている	知らない	無回答
全体		39.5	58.4	2.0
性別	男性	44.0	54.5	1.5
	女性	36.3	61.5	2.2
年齢別	20歳代	26.9	71.6	1.5
	30歳代	30.7	68.8	0.5
	40歳代	35.3	64.3	0.4
	50歳代	39.6	60.4	0.0
	60歳代	44.1	53.1	2.8
	70歳代	48.4	47.1	4.5
	80歳以上	47.4	48.9	3.8
人権研修等参加経験別	参加したことがある	64.6	34.9	0.4
	参加したことがない	35.0	62.9	2.1

特徴	人権研修等に参加したことがある人が人権相談の窓口を「知っている」とする割合は6割を超えている。一方、女性や50歳代未満では人権相談の窓口を「知らない」とする割合が6割を超えており、こうした層の人権研修等に参加する機会を増やすことが、人権相談窓口の認知度を高めることにつながると思われる。
課題等	女性や若年層が人権研修等に参加する機会の拡大。
取組の方向	① 市町村とも連携を図り、女性や若年層の人権研修等への参加機会を拡大する。 ② 女性や若年層を対象とする他の催し等において、人権相談窓口の周知を図る。

## 2 人権侵害経験の有無

問4-1 あなたは、過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。(※5年度と13年度の調査では「過去5年間」の限定なし)

【調査結果】

区 分	あ る	な い	わからない	無回答
<b>23年度調査(今回)</b> 〔京都市を除く〕	<b>13.9 ↓</b> 〔14.9 ↓〕	<b>73.2 ↑</b> 〔73.4 ↑〕	<b>11.9</b> 〔10.9〕	<b>1.0 ↓</b> 〔0.8 ↓〕
13年度調査	26.8 ↓	67.1 ↑	(設定なし)	6.1 ↓
5年度調査	27.9	63.7	(設定なし)	8.4

性 別	男 性	女 性	あ る	な い	わからない	無回答
性別	男性	女性	11.6	78.0	9.9	0.5
年齢別	20歳代	30歳代	14.2	71.6	14.2	0.0
	30歳代	40歳代	19.3	65.8	14.9	0.0
	40歳代	50歳代	18.1	70.2	11.3	0.4
	50歳代	60歳代	16.9	69.8	12.4	0.9
	60歳代	70歳代	11.8	76.7	9.6	2.0
	70歳代	80歳以上	9.0	79.4	10.8	0.9
	80歳以上		6.8	80.5	12.0	0.8
人権研修等 参加経験別	参加したことがある	参加したことがない	21.0	69.0	9.6	0.4
			12.1	74.5	12.5	0.9

特 徴	13.9%の人が、過去5年間に人権侵害をされたことが「ある」と感じている。 男性より女性の方が、人権侵害をされたことが「ある」とする割合が多く、30歳代から50歳代では人権侵害をされたことが「ある」とする割合が概ね17%から19%に達していることから、女性に対する人権侵害や職場における人権侵害への対策の必要性がうかがえる。
課 題 等	① 女性に対する人権侵害対策 ② 職場における人権侵害対策
取組の方向	① 男女共同参画社会の実現へ向けた啓発とともに、ドメスティック・バイオレンスやストーカー、セクシュアル・ハラスメントなど女性が被害者になることが多い人権問題に対する取組を推進する。 ② 職場内における人権意識のさらなる高揚を目指し、企業内人権啓発推進員など職場での人権研修を推進する人材の育成と資質向上の取り組みの充実を図る。